

# 八菅山

## いこいの森の生きものたち

自然環境を将来に引き継ぐために



第1集 2014年発行

### 愛川町・サークル愛川自然観察会

<http://www.7b.biglobe.ne.jp/~aikawashizenkansatu/>

### 1 いこいの森の自然

八菅山一帯は、神奈川県指定の自然環境保全地域並びに風致地区に指定されています。また、八菅神社の社叢林は神奈川県の天然記念物に認定され、いこいの森は神奈川県公園 50 選に選ばれているなど、自然環境が良好な場所として知られています。

愛川町が整備した「八菅山いこいの森」は、自然を保全しつつ自然景観と調和のある広場や施設をつくり、人と歴史と自然とが触れ合う場所として維持されることを目的にしたものです。人々の心身の健康にとっても尊い空間となっています。

### 2 県指定天然記念物「八菅神社の社叢林」

八菅山の海拔 100m~170m の南東斜面は「八菅神社の森」と称される樹高 15m 以上のスダジイ林が自然植生として発達しています。参道周辺では高木層にスダジイが優先し、亜高木層はヒサカキ、アラカシ、ヤブツバキなどが、低木層はツルグミ、アオキなど、草本層にはベニシダ、ヤブラン、フユイチゴなどが生育する重層構造の林となっています。

相模平野の内陸部にあってヤブコウジースダジイ群集が現存する貴重な樹林であることが指定理由となっています。

### 3 八菅山自然環境保全地域

自然的、社会的諸条件からみてその区域における自然環境を保全することが特に必要な区域として神奈川県知事が指定した地域です。樹齢 300 年とも言われるスダジイの古木を中心とし、クロガネモチ、タブノキ、ヤブツバキ等の照葉樹林にスギやモミの巨木が混じった自然植生が現存しています。

### 8 愛川町とサークル愛川自然観察会の協働事業

#### ① 生態系の保全

トンボ池に生息する外来種や、八菅山を流れる大沢水系の生態系を歪めている生物種を、生物多様性の保全法、外来生物法の趣旨から駆除することの必要性を解説した説明板の設置をしています。

#### ② 情報発信基地

あおぞら博物館内の掲示物を更新しています。愛川町域の自然に関する情報発信基地の一つとして、季節ごとに野鳥や昆虫、植物等の自然情報を掲示しています。

#### ③ 四季の自然観察会

八菅山は「自然環境保全地域」と「県指定天然記念物」「公園 50 選」等の指定を受けた自然豊かな森であることから、多くの人々が自然環境に関心を持ち、自然に親しむ機会として、季節ごとの自然観察会を実施しています。

サークル愛川自然観察会  
 連絡先 243-0306 愛川町代 1104 番地 山口勇一(代表)  
 TEL 046-281-1891 FAX 同左  
 E-mail [yalmalgu0chi4@ksh.biglobe.ne.jp](mailto:yalmalgu0chi4@ksh.biglobe.ne.jp)  
 URL <http://www.7b.biglobe.ne.jp/~aikawashizenkansatu>

植物相には県内でも分布の稀なコクラン、マヤラン、キンラン、クロヤツシロラン、オオバントンボソウなどのラン科植物や、アリドオシ、ハイチゴザサ、オオダイコンソウ、ウラジロ、ウチワゴケ等の貴重植物が生育しています。

豊かな自然は昆虫や野鳥など多様な生きものを育てています。

### 4 風致地区

都市の中の風致を維持するため、山並み、樹林地、丘陵地、水辺地、郷土意識の高い土地などの良好な自然環境を保持している区域や、史跡、神社仏閣等がある区域、良好な住環境にある区域等を対象に、都市計画によって定められた地区です。

愛川町では優れた景勝地や史跡、自然景観を有する地域を指定しています。地区内の緑化に努めるとともに、風致を維持するため次の行為には条例により許可を受ける必要があります。

1. 建築物の新築など
2. 宅地造成、開墾など
3. 木竹の伐採
4. 土石類の採取
5. 建築物の彩色変更

### 5 あおぞら博物館

「野外で生きたままの自然を見ることが出来る施設」として整備された水辺や池、広場からなる場所です。

#### ① トンボ池

トンボやゲンゴロウ、ドジョウなどの水生生物の生息地として作られました。

#### ② あおぞら館

休憩所を兼ねた施設で、自然関係の資料などを掲示し、更新は季節ごとに行われています。

### 6 生きもの観察

#### ① 植物

常緑広葉樹の巨木や推定樹齢が 100 年を超える古木が数多く自生しています。尾根沿いはコナラ等の落葉広葉樹の二次林となっています。林床にはベニシダ、フユイチゴ等多様な草本類が見られます。

ハイチゴザサ、マヤラン、ウラジロ等の県内での自生が稀な植物も多くを数え、キンラン、ギンラン等の絶滅危惧種に指定されている植物も自生しています。

#### ② 野鳥

八菅山一帯は、樹林、畑、水田、谷戸や河川の水辺、集落等、多様な自然環境からなり、様々な野鳥が集まる場所として野鳥観察の好適地となっています。

シジュウカラ、メジロなどの留鳥の他、四季折々に姿を見せるジョウビタキ、ツグミ等の渡り鳥が賑やかに自然を演出し、多い時には 30 種を超えるウォッチングができます。

#### ③ 昆虫

八菅山一帯の自然は多くの小動物を育み、四季を通して様々な昆虫に出会うことができます。水田と森を行き来するトンボ類にとっては理想的な環境となっています。

花々を巡るハチやアブ、決まった食草を食べるチョウやガの幼虫、樹液に集まる甲虫類、池や水田をすみかとする水生昆虫等の生態を観察することができます。

### 7 周辺地域の自然環境

#### ① 鷲尾山

八菅山南東の厚木市と愛川町の境界に位置しています。愛川町と荻野地区を結ぶ樹林内を通る林道から登ることができ、山頂部は平坦になっています。吹き上げる気流によって移動するチョウの群れに出会うこともあります。標高 230m 程で、厚木市内をはじめ遠方が眺望できます。

#### ② 尾山耕地

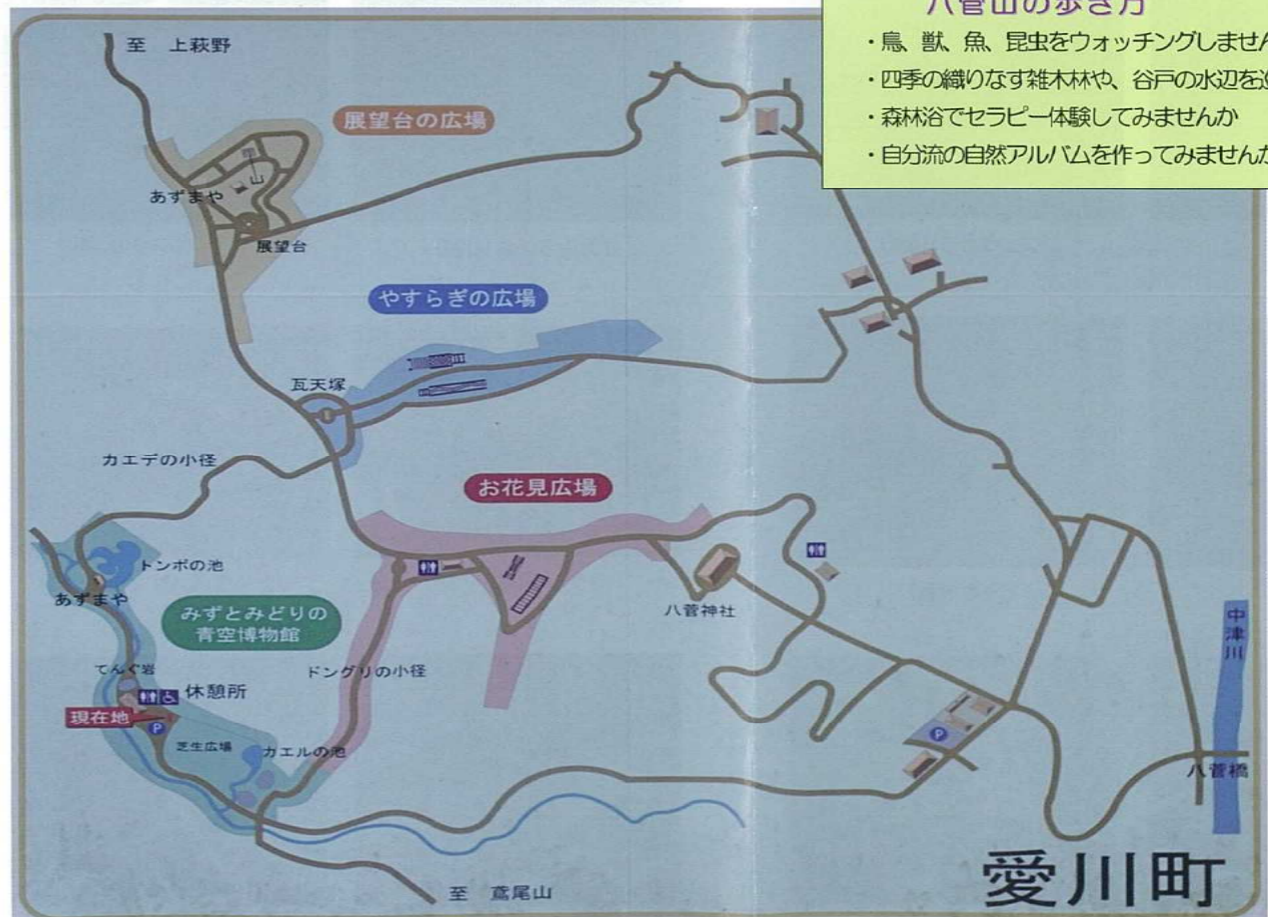
八菅橋上流の中津川右岸に広がる水田地帯です。人為的影響の少ない環境にあって、他の地域では見られなくなったコオイムシやイトアメンボ、トウキョウダルマガエル、イトトリゲモ、イチョウウキゴケ、ホシクサ等の水辺の生きものに会うことができます。これらは絶滅危惧種に指定されています。

特にトンボ類は 30 種を超え、発生期の異なる種類が春から秋にかけて次々と観察できます。

#### ③ 中津川

丹沢山地に源を発し、宮ヶ瀬湖で貯留された後、流域の集落や水田を潤しながら愛川町域のほぼ中央を流れ下っています。アユが多く生息する川として知られ、昔から様々な漁法でアユ漁が行われていました。八菅橋付近では多くの釣り人やキャンパーの姿が見られます。

### 9 散策路・自然観察路



八菅山の歩き方

- ・鳥、獣、魚、昆虫をウォッチングしませんか
- ・四季の織りなす雑木林や、谷戸の水辺を巡ってみませんか
- ・森林浴でセラピー体験してみませんか
- ・自分流の自然アルバムを作ってみませんか



あいらん



# 四季を彩る八菅山の生きものたち



キビタキ(初夏)



オオルリ(初夏)



アオジ(冬)



カルガモ(通年)



タシギ(冬)



ツグミ(秋～春)



ウグイス(通年)



シジュウカラ(通年)



ホトトギス(夏)



ノビタキ(秋)



モズ(通年)



ルリビタキ(冬)

◎ 八菅山には、植物、キノコ、コケ類が生え、野鳥、昆虫、哺乳動物、爬虫類、両生類等も生息しています。様々な生きものが相互に関係しあって多くの生きものを育み、豊かな生態系を形づくっています。

◎ 八菅山には、樹林、草地、水湿地など様々な自然環境があります。生きものたちはそれぞれの特性に応じて、生存に都合の良い環境を中心として棲み分けています。

◎ 近年は外来生物の侵入がいちじるしく、昔からいた生きもの(在来種)の生活場所が奪われ、数が減ったり絶滅が危惧されるようになって来ています。また、外来種と在来種の交雑が起こって遺伝子的攪乱も心配されます。

日本の風土が長い年月をかけて育んできているその土地ならではの植物や動物たちの暮らす自然環境を、将来に引き継いでいくことは大切なことです。

## いこいの森のみんなのエチケット

- ・植物や昆虫等を大切にむやみに取らない。
- ・林内では鳥たちのために大声は出さない。
- ・煙草は灰皿のあるところで。
- ・ゴミは必ず持ち帰る。
- ・動物にエサはやらない。



ツマキチョウ(早春)



ミンミンゼミ(夏)



ツチイナゴ(初夏・秋～冬)



ヤマトタマムシ(夏)



オオムラサキ(夏)



アオハダトンボ(初夏)



オカトラノオ(初夏)



タチツボスミレ(春)



ヤマボウシ(初夏)



アキノキリンソウ(秋)



イチモジフユナミシヤク(冬)



ショウリヨウバッタ(秋)



クルミ(秋)



カシワバハグマ(秋)



クサイチゴ(春)



オカタツナミ(春初夏)



ハラビロカマキリ(秋)



アオオサムシ(初夏・秋)



ウツギ(春)



ツリフネソウ(秋)



ジャノヒゲ(秋冬)



キチジョウソウ(秋)



アサヒナカワトンボ(初夏)



キムネクマバチ(春～秋)